

- (1967) pp 478—489. 葛西ほか2名  
 ◦ Stereoscopic Analysis of Photographs taken by NIMBUS II APT.; 気象集誌, Vol. 46 (1968) pp 60—67. 葛西ほか1名  
 ◦ ベトナム，タイ付近の雲の航空写真解析と TIROS 写真の比較; 日本気象学会41年春季大会 葛西ほか2名

- 冬期季節風時に於ける列状雲に対する地形の影響について; 日本気象学会41年秋季大会  
 ◦ 雪雲の TIROS 写真と地上観測写真との比較解析; 日本気象学会 41年秋季大会 葛西ほか1名  
 ◦ 石狩平野における雪雲の総合観測 V; 日本気象学会 41年秋季大会 葛西ほか2名

## 山の気象シンポジウム アブストラクト

日 時：6月15日 13時より

会 場：気象庁第1会議室

1. 大井正一（気象研究所）：連休の天気について  
 一昨年（1967）の五月の連休に富士山で斎藤さんが遭難され、その後筆者がドイツ人と一緒に登山して嵐に逢った。今年（1968）の五月の連休にも富士山で天気図からは意外な天候となった。此の3回は何れも異常気象の如くに見られるがこう度重なると異常なのか正常なのかも判らないで少し調べて見た点をお話したい。（20分）
2. 宮内駿一（気象庁）：低気圧接近時の好天について（43. 4. 28谷川の遭難）  
 4月28日谷川岳一の倉沢で東海大学山岳部員4名が遭難死亡したが、34年5月18日専修大学山岳部員3名が同じ一の倉沢で遭難死亡している。どちらも低気圧が接近しつつある時の登山で、予報技術者なら登山はどうかと思うような日である。しかし登山を決定したのは日常予報が外れることがあることと、目前の天気が割合よい方であったらしい。しかし低気圧の接近する前の一時的好天は時々あることで慎重に判断すべきことである。（特に南西風の時降り出しが遅れるので登山者は予報の外れと思うのであろうか？）
3. 三寺光雄（気象研究所）：森林と気象  
 わが国のきびしい自然は、生物的自然にどのような影響を与えているか。国土の7割をしめしていると云われる。わが国の森林は、気象にどのような影響を与えているか。こうした課題は以前から考えられてはいたが統一的な研究はまだ進んでいない。  
 ここでは、竹林の研究を通して、森林がもつ機能、環境としての気象の役割などについて述べたい。最後に人間社会に対する森林の効用についても述べる。
4. 小岩清水（専修大学付属京王学園）：森林景観より見た気候〔早池峰第4報〕  
 早池峰気候調査の一環として、早池峰域で最も自然環境の厳しいと思われる七里河原沢上流右股沢の調査を実施しその特異な森林景観から主として冬の積雪移動（匍行現象、雪崩現象）等の状況を推定する事ができた。特に平均積雪で1.5m程の早池峰山域で局地的に沢の中に集中する雪の深さは17m以上に達する等、登山者の立場からも注目すべき結果となった。これらについて第4報として報告する。
5. 山本三郎（河口湖測候所）：富士山接地層の気流について〔富士山の気象第9報〕  
 富士山の接地層付近には、前面・後面・側面強風地帯、整流域、突風地帯、ツムジ地帯、弱風域などがあり、この風系はその日の（山頂上を吹く）主風向、風速と密接な関係にあることを第4報（昭35年6月）のモデルで述べた。今回、気象研究所予報研究部との共同調査によって、山体に発生した雪煙を16ミリコマどりで撮影した。このフィルムの解析結果によっても、先のモデルの正しかったことが証明される。そして、冬の吉田口登山道8合目付近の滑落事故多発地が、接地層の気流と密接な関係にあることを述べる。〔16ミリを使用 約10分〕
6. 飯田睦次郎（気象研究所）：夏山要注意気象について  
 夏山で注意を要する気象現象として、台風、集中豪雨、雷の3つをあげることが出来る。今回は昭和31年から40年迄の7、8月におけるこれら気象現象についての統計および夏季における天気図型の分類との関連、その他、夏山登山での気象による注意事項を考察する。